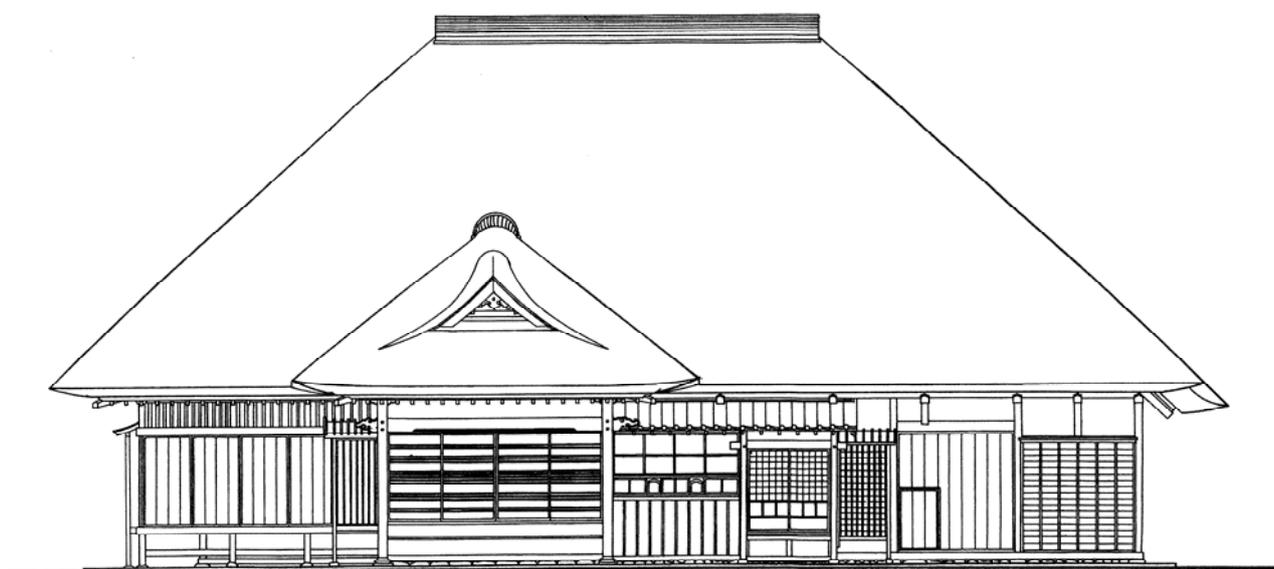


茨城県指定有形文化財・取手市指定史跡

旧取手宿本陣染野家住宅



取手市教育委員会

はじめに

旧取手宿本陣染野家住宅は、寛政7年（1795）に建築されました。

江戸時代、参勤交代の制度により大名は江戸と国元の間を往復しましたが、その道中で宿泊や休息に利用した家を本陣と呼びました。染野家の当主は、代々取手宿の名主を勤めていましたが、貞享4年（1687）に水戸徳川家から本陣に指定されたと伝えられています。そして水戸徳川家の歴代の藩主だけでなく、江戸と水戸の間を行き来する水戸藩士や、他の大名も染野家を本陣として、宿泊や休息に利用しました。

文化財の指定と修理工事

取手市では、昭和62年（1987）1月に旧取手宿本陣を史跡に指定しました。次いで同年6月には、染野家から主屋・土蔵・表門・徳川斉昭の歌碑が、取手市に寄贈されました。同年12月からの土蔵と表門の解体を皮切りに、土蔵の解体修理工事・主屋の半解体修理工事・表門の解体復旧工事・庭園の整備工事などがはじまり、平成8年度にすべての工事が終了しました。また平成8年1月には、主屋と土蔵が茨城県指定有形文化財に指定されています。平成9年9月から一般公開が始まり、こうして皆様に旧取手宿本陣の建物などをご覧いただけるようになりました。

水戸街道

水戸街道は、千住と水戸を結んでいました。間には、千住・新宿・松戸・小金・我孫子・取手・藤代・若柴・牛久・荒川沖・中村・土浦・中貫・稲吉・府中・竹原・堅倉・小幡・長岡・水戸の20宿がありました。ただし荒川沖と中貫は片継の宿なので数に入れずに、水戸街道は18宿とする数え方もあります。これは、荒川沖では、中村からの上りの荷物は牛久まで継ぎ立てしても、牛久からの下りの荷物は、牛久の人馬が中村まで継ぎ立てしたからです。同じく中貫では、土浦からの下りの荷物は稲吉まで継ぎ立てしても、稲吉からの上りの荷物は稲吉の人馬が土浦まで継ぎ立てしたからです。

取手宿

江戸時代はじめの取手宿は、佐倉道（守谷に向かっては守谷道）と呼ばれる現在の守谷市と千葉県佐倉市を結ぶ道沿いにありました。すなわち、八坂神社から現在の図書館・市民センターを通り、利根川の川原の中に町並みが作られていました。ところが寛文6年（1666）の利根川の大洪水で、この町並みが大きな被害を受けたため、利根川に平行するような町並みに改められました。この道と町並みが、現在の県道取手・東線にあたります。

水戸街道が取手を通るようになると、現在の取手競輪場や弘経寺のあたりにあった大鹿村の人たちが、街道沿いに移住してきました。大鹿村の移住は元禄10年（1697）ころには終了し、利根川の渡船場も同じころに現在の大利根橋のあたりに移ったようです。このときが、後の水戸街道と取手宿の町並みが完成したときと言えそうです。

水戸街道の付け替え

江戸時代はじめの水戸街道は取手を通らず、我孫子からは東に進み、布佐で利根川を渡

寛文6年 取手宿絵図

(染野修家文書 C40)

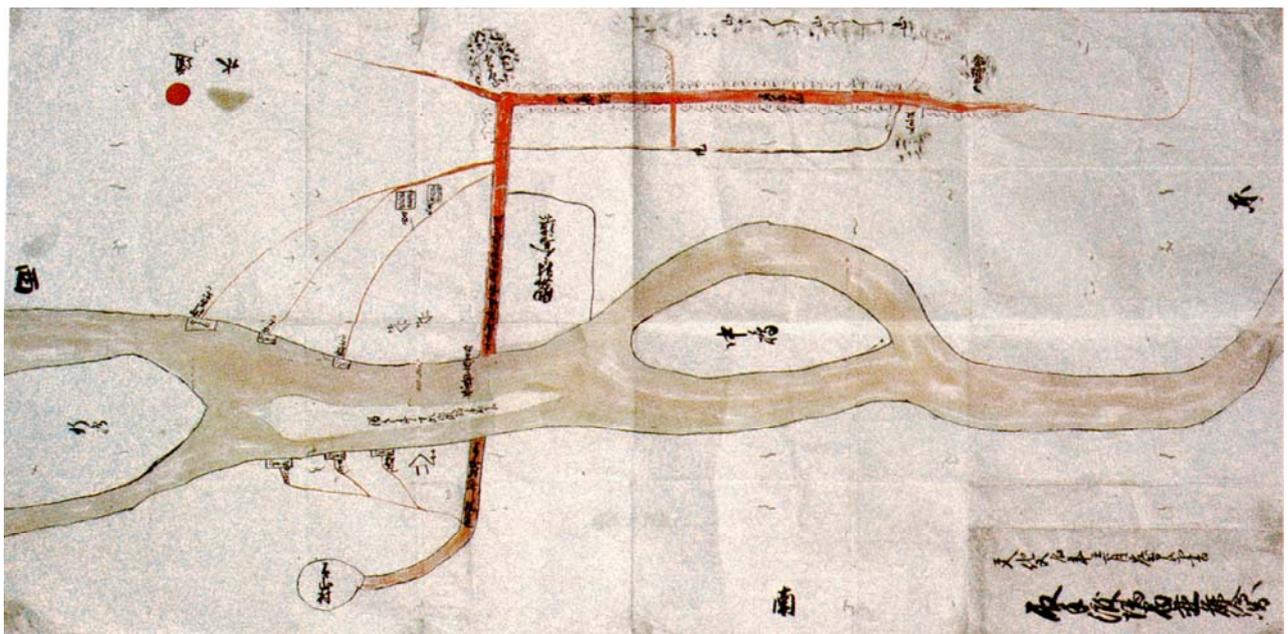
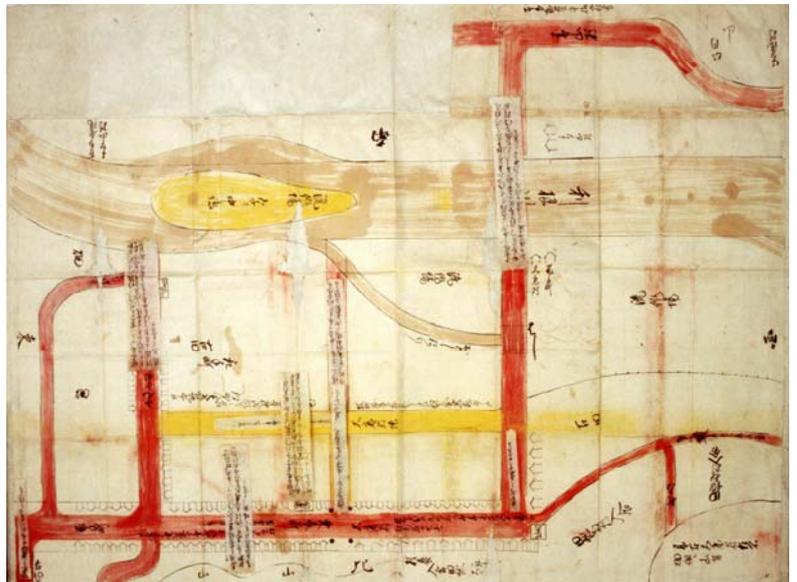
現在の八坂神社から利根川の川原の中に、取手宿の町並みが形成されていました。



明和8年 取手宿・大鹿村絵図

(染野修家 C60)

現在の県道取手・東線が町並みとなっています。



文化5年6月 取手渡場宿並僮絵図 (染野修家 C65)

水戸藩主などの大名行列が利根川を渡るときは、身分によって渡る場所が違っていました。

り、対岸の利根町布川から北に向かっていました。この道沿いには、一里塚の跡や伝承地が残り、整備された重要な街道であったことがわかります。

水戸街道が取手を通るようになったのがいつごろかは、はっきりとわかりません。史料から確認できる最初の水戸藩主の通行は、天和2年（1682）に2代藩主徳川光圀が江戸から水戸に向かったときです。しかしこれ以前にも水戸藩主が取手を通っている可能性もあり、また翌天和3年（1683）に光圀が江戸に戻るときには、潮来から船に乗り利根川をさかのぼり、布佐で上陸しています。ですから天和2年以降も、必ず水戸藩主が取手を通るようになったのではないようです。

建物の概要

1. 表門

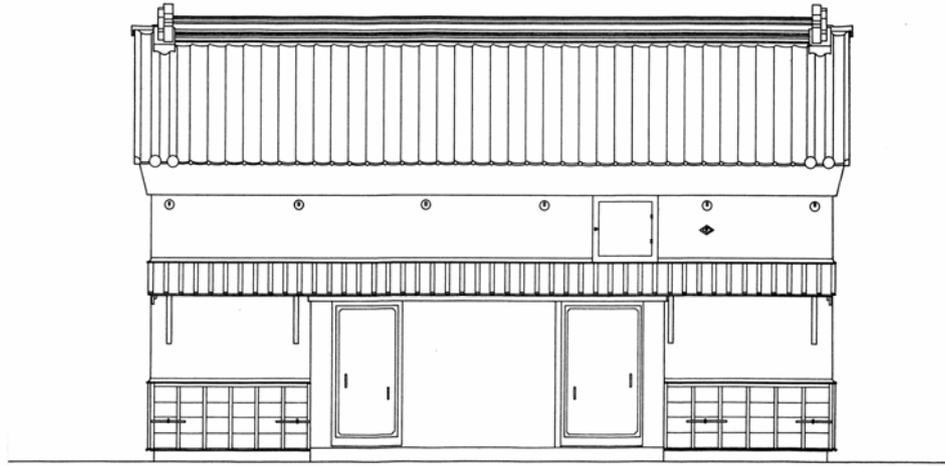
文化2年（1805）に、建てられました。昭和53年の大風による倒木で大破しましたが、部材を一部取り替えて再建しています。土蔵や主屋の修理に際して、材料の搬出入の障害になるのと、修理の時期が来ていたことから解体して復旧しました。

2. 土蔵

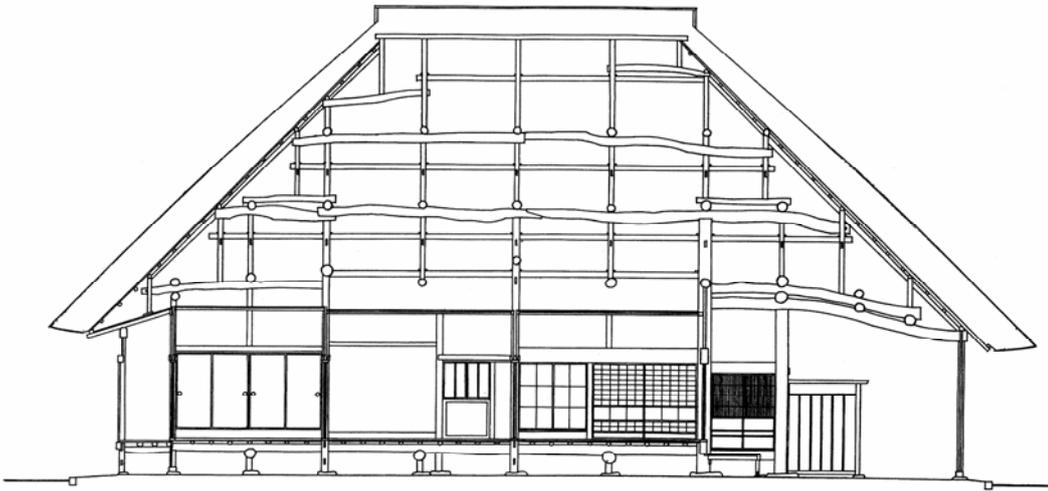
主屋や表門と同じく、18世紀末から19世紀初めに建てられたと推定されています。明治30年（1897）に修理されたことが、梁の墨書からわかりました。中は2室に仕切られ、南側（向かって左）は2階、北側は1階になっています。

3. 主屋

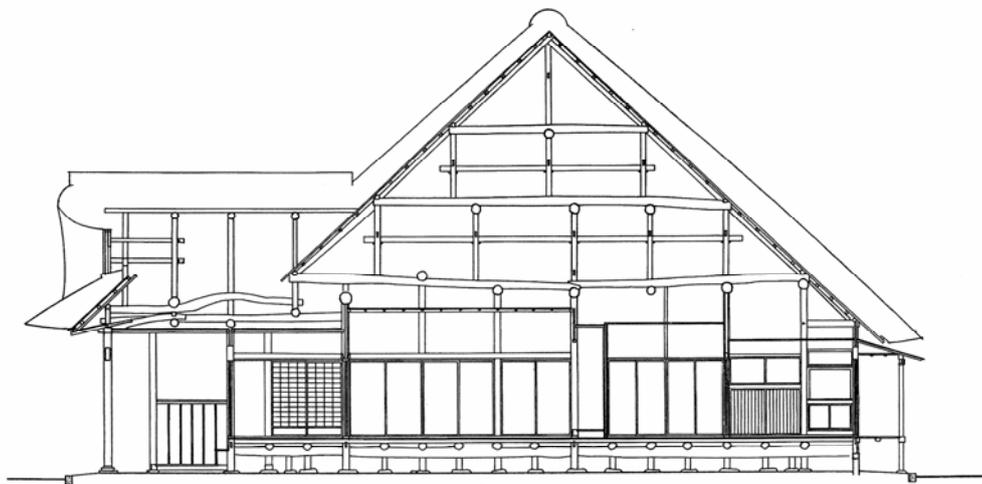
- ① **玄関** 主屋のほぼ正面に堂々とした入母屋造りの玄関があります。玄関には、本陣を利用する大名など身分の高い武士が、駕籠を横付けして直接建物の中に入れるように式台が付いています。
- ② **どま** 染野家の人びとが通常出入りに利用するのは、玄関の右側にある大戸です。大戸から建物の中に入ると、**どま**になっています。**どま**の奥には、調理に使った**石くど**があります。**どま**には天井が張られていないので、梁丸太が3段に組み上げられ、3本の大黒柱で屋根の重みを支えているのを、見るができます。
- ③ **染野家の居住部分** 土間から六畳間に上がり、**なんど・なかなんど・ちゃのま・ひろま**とまわる部屋が、染野家が日常生活で使用する部分です。六畳間には押入れ、**なんど**には押入れと棚、**なかなんど**には押入れ、**ちゃのま**には床（とこ）が付いていますが、これらは後に付け加えられたものです。また**なんど**と**なかなんど**は、元は板敷だったようです。**ちゃのま**と**ひろま**の間のガラス戸の板ガラスは、中に空気の泡があり、表面も波打っている大変にめずらしいものです。
- ④ **なかのま** 式台から玄関にあがると、正面が**なかのま**です。**なかのま**から西側の部屋が、本陣として武士が利用する部分です。これらの部屋にはすべて鴨居に長押が付けられ、染野家の居住部分の部屋が差鴨居であるのと対照的です。正面には大床が付き、右側は染野家が仏壇として使っていました。ここを仏壇として使用する以前には、**なかなんど**と通り抜けができたようです。
- ⑤ **上段の間・二の間・三の間** **なかのま**から左に折れると、八畳間が南北に3部屋並んでいます。手前（南側）から三の間・二の間・上段の間です。上段の間は、大名など身分の高い武士が利用する部屋で、ゆかが框1本分（約20センチメートル）高



土蔵正面図



主屋桁行断面図



主屋梁間断面図

くなっています。奥には床（左側）と違棚・天袋が付き、左側に平書院が付いています。違棚は中央が一段高くなった「井楼棚（せいろうだな）」と呼ばれるもので、天袋と井楼棚の組み合わせは床の間の格式では最も高いものです。平書院の障子の上にある板欄間のひょうたんのくり抜きや、二の間と三の間の境の菱格子欄間も趣があります。庭に面した廊下側の柱は、角に木の丸みが残っている「面皮柱」が使われ、数奇屋風に仕上げられています。

- ⑥ 郵便窓口跡 ひろまの前、玄関の右側（東側）の板敷の部屋は、明治の初期に郵便局として使用していました。建物の外側に面して馬蹄型の窓口がありますが、これが郵便の窓口跡です。明治11年（1878）3月、染野晋は五等郵便取扱役となっています。この時に自宅を改造して窓口を付けたのでしょう。同じように建物の外に面した明治期の郵便窓口跡としては、東京都府中市の矢島家住宅・奈良県奈良市の松本家住宅・大阪府堺市の川口家住宅の3つしか残っていません。ここ取手の郵便窓口跡は、郵便創業期の姿を現在に伝える大変に貴重な文化財です。

徳川斉昭と本陣染野家

水戸藩は、定府といい他の大名のように参勤交代をせずに、藩主は常に江戸の藩邸にいたのを原則としていました。しかし初代頼房と2代光圀までは頻りに江戸と水戸を往復していました。

水戸の滞在期間がもっとも長かったのは光圀でしたが、次いで長いのは第9代藩主の斉昭です。天保5年（1834）4月、水戸から江戸に戻る道中、取手宿本陣で休息した斉昭は、壁紙に使っていた文谷筆の瀧の絵に「山姫の 衣やさらす 春過て 夏きてそ見る しろ妙の（瀧）」の和歌を書いています。この絵は後に壁からはがされて軸装され、染野家に家宝として伝えられています。また天保11年（1840）1月、水戸へ向かう斉昭は、利根川を渡る船中で和歌2首を詠みました。その日は取手宿本陣に宿泊した斉昭は、翌朝和歌2首を上段の間の袋戸に貼り付けて出立しました。これも現在は軸装されて、家宝として染野家に伝わっています。このうちの1首は、天保14年（1843）5月に石に刻まれ染野家に贈られました。歌碑には、「指して行 さほのとりにての 渡し舟 おもふかたへは とくつきにけり」の和歌が刻まれています。斉昭は、取手宿本陣と染野家にとって、一番ゆかりの深い水戸藩主といえます。

斉昭の7番目の男の子だった松平七郎麿が、最後の将軍となった徳川慶喜です。真偽のほどは確かめようもありませんが、慶応4年（1868）4月12日、謹慎先と定められた水戸に向かう慶喜は、表門で駕籠をおりて玄関まで歩いたそうです。

利用案内

- 公開日 毎週金曜日・土曜日・日曜日（年末年始を除く）
- 公開時間 午前10時から午後4時まで（入場は午後3時30分まで）
- 問い合わせ

取手市教育委員会 教育総務課 埋蔵文化財センター

〒302-0007 取手市吉田383

TEL 0297-73-2010

FAX 0297-73-5003

maibun@city.toride.ibaraki.jp



